

# そなれ松のように

令和5年度  
銚子市立高神小学校だより  
令和5年7月12日  
VOL. 19

## 子ども達の興味関心を大切に

あるファミリーレストランでの出来事です。(どちらもほぼ本当の話です)

### 【Aさんの家庭】

子ども「ねえねえ、ここに書いてあるラッシーってなあに？」

母親「何だろうね…。カレーと一緒に注文するみたいだから、インドの飲み物かな？！」

子ども「注文してもいい？」

母親「飲みたいの？ちゃんと飲むなら注文してもいいわよ。」

子ども「やった！ちゃんと飲むからね！」

母親「どんな飲み物か、楽しみだね。」

### 【Bさんの家庭】

子ども「ねえねえ、ここに書いてあるラッシーってなあに？」

母親「そんなものどうでもいいのよ。早く食べるもの決めちゃいなさい。」

子ども「えー、インドの飲み物みたいだよ。どんな味がするのかな…」

母親「どこの飲み物か分からないものより普通のジュースがいいでしょう！」

子ども「う～ん・・・」

Aさんの家庭では、きつとこのあと「ラッシー」を巡って話が弾むことでしょう。ラッシーがどのようなものであるのか、どこの国の飲み物なのか、何が原材料なのか等、子どもの興味関心をもとに、もしかしたらインドの位置やインドの食べ物、文化、風習といったところまで興味や知識を広げられるかもしれません。それは、親御さんが教えなくても、子どもに自分で調べさせればよいのです。子どもに、「自分で調べてみようか」と促せばよいのです。ラッシーが興味を引く飲み物であったなら、きつと調べるはずです。(はじめのうちは一緒に調べてくださると、これほど嬉しいことはありません)

それに比べて、Bさんの家庭では、このあとラッシーへの興味が膨らむことはないでしょう。そして、インドへの興味も…。せっかくよい機会を得たのに、生かすことができなかったことが残念です。その日は飲まなくてもよいので、「どんな飲み物だろうね？」「材料とか調べられたら、今度飲んでみようか」と話題を膨らませられれば、子どもは次までに調べるかもしれません。どこに“勉強の種”が転がっているか分からないので、ちょっとだけ興味関心を抱かせるような声かけをできるとよいのです。

街中にいると、「ねえ、これってなあに？」「これどこの国のもの？」といった子どもの声をよく聞きます。私は「いいぞー、いろいろなことに興味をもってるなあ」と嬉しくなるのですが、このあとの親御さんの対応にガッカリすることも少なくありません。子ども達が興味関心を持ったときに、それを生かさないのはすごくもったいないと思います。子ども達の学力の源は「好奇心(興味関心)」であることを改めて伝えたいと思います。

